

# 目的志向の読書術

～読書という行為の意味を考え効率的な読書をする～

vol.38

平野 友朗 株式会社アイ・コミュニケーション 代表取締役



て皆さん読書をしていますか？と聞かれたときに、そんなに目的ないなっていう人もいるんじゃないかなど。なんか流行っているから読んでいたりとか、読まないといけないから読んでみたい、そういうケースもあるんじゃないかと思っております。

時間管理のセミナーをちょうど昨日やったんですけども、やっぱり全ての動作に目的を持つてというのがすごく大切だなと思うんですよ。

皆さん、こんにちは。「実践塾シェアクラブ」の平野友朗です。

今日は「目的志向の読書術」というテーマでお話をしたいなと思っております。この考える方の思考じゃなくて、向かう方の思考を使ったのは、「心が物事を目指し、それに向かうこと。考え、気持ちがある目的を目指すこと、心の向かうところ」が、志向という意味で、考えて読書しましょうっていうよりは、目的に向かって読書をしていきましょう。

ここで話すという行為もそうだし、この場所に来てもらっているっていうこの動作にもやっぱり目的が伴っているかどうか。例えば、会員さんと仲良く話したいという目的で来るのか、平野の話を聞いてちょっと勉強して自分の事業に生かそうと思うのか、あるいは平野が話す様を見て、あつ動画ってこういうふうにするんだなっていうのを学びに行こうとか、何でもいいんですけども、何の目的で参加するのかによって、学びっていうのは深くなっていくと思うんですよ。

私は、かなり乱読なんですよね。もう年間で今400冊ぐらい読んでいますけれども、正直そんなに良い読み方じゃないかな。なので、今日は最後には、今後どういう読み方をするのかという話もしていこうと思うんですけども、目的を持つ

一つ一つの動作を、やっぱり私も精度を上げていかなきゃいけないなと思っているので、こういった蜂蜜ドリンクを飲むのも、なぜこの蜂蜜ドリンクなのか？どこの蜂蜜ドリンクがいいのか？みた

いなことをある程度考えて、考えが落ち着いたら、それをずっとやっていく、突き詰めてくっていく、そういう行動パターンをとるようにしております。

あとは娯楽としての読書、今日いくつか本を持って来ていますけれども、小説は私は娯楽としてたくさん読みます。映画を見ている、本を読んでも私の場合、映像で残るので、小説読んでいても、もう勝手に映像が記録されていて、映画を見たか、本を読んだかっていう記憶がなくなっちゃうんですね。でもなんとなくそのぐらい私の場合、娯楽に向いている。

さて、皆さん、「読書の目的」と言われたらいくつぐらい出せそうですかね？ 10個ぐらい出せそうですか？

例えば、暇つぶしの読書ってあると思うんですね。ちょっと時間が空いちゃった、やることがないから。そうなったときに、ネットサーフィンしよう、ゲームをしよう、寝よう、ボーとしてよう、いろんな人がいると思うんですけども、その空いた空間を読書で埋めるっていうそういう人もいます。

人によっては本を読む目的が、泣きたいとか、感動したいとか、笑いたいとか、そういった娯楽も含めてですけども、そういう目的を持っている人もいるんじゃないかな。

昔多かったと思うんですね、電車に乗ってもみんな本を開いている、新聞を見ている、雑誌を見ている、活字を読んでいるっていうのが多かったと思うんですけど、今はみんなスマホでゲームをやっていたりとか、私は結構人のスマホを覗き込むのが好きで、好きでって言ったらアレですけどね（笑）。

それから、これは皆さんよくやると思うんですけど、ある特定のジャンルの深掘りをしたい。私はメールの専門家なので、メールと名の付く本が出たらやっぱり知っておきたいし、深掘りをしたいので必ずそれを読む。

起業の話しをすとなったときには、やっぱり恥ずかしい話はできないですから、起業の話を深掘りしたいって言って10冊ぐらい読んで、自分の知識を整える、そんなことにも使ったりしました。

どのぐらいの世代の人が何をやっているんだろうって思うと、やっぱり Instagram 見ている人とか、Twitter をやっている人、世代によっては Facebook やっている人が結構やっぱ多いんですね。それはそれでいい活動かなと思うんですけども、やっぱり読書している人が減ったなあなんて思います。なので、もしかすると暇つぶしの読書というのは、結構高尚な作業なのかなあなんて思います。

あとは流行についていきたい。やっぱり100万部売れた本っていうのは、読んでないと…っていう気持ちもあるので、やっぱり買っちゃうんですね。

昔で言ったら何だろう、「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」2005、6年に出た本だと思うんですけど、もうちょっと前かな。当時著者の山田真哉さんといろいろ親しくお話することもあったんですけど、全く覚えていないですね。

実家の掃除をしていたら、その本が出てきました。この前読んでみたんですけどいいこと書いてありますね。当時あれを読んでなんとも思わなかったんですけど、今読むと奥が深いなっていう。

画編集することが増えたので、さっぱりわかんないですよ。もう一番簡単な本を買おうということで、これを買って、これで新規のページみたいなのを立ち上げて、書き出すみたいなの一連の作業ができるようになった。

やっぱり本って、自分の状況とか知識によって得るものが違うなっていうのを、まじまじと感じたんですけど、実家の棚を見ていたら、山田真哉さんの「さおだけ屋」の本、それから14歳で割腹自殺をした人、そこから生き返って弁護士になって、みたいな壮絶なお話書いてあるんですけど、ヤクザの人のお嫁さんになり、入れ墨を入れ、その後弁護士に。当時一世を風靡したらしいです、そういう本（「だから、あなたも生きぬいて」大平光代）もありました。続編も結構売れてるみたいな感じで。

やっぱり業務上必要なものっていうのは、セミナーに参加してもいいんですけども、ただ、マニュアル的なものを求めているんだったら、本ってやっぱり強いと思うんですよ。

やっぱり多くの人が起業するならば、起業の教科書的な本を読んだりとか、メルマガを出したいなと思ったら、メルマガの出し方とか、そういう感じで本を選ぶことがあるんじゃないかな。業務上必要なもの、それを学ぶための目的がある。

他にも実家の棚にあったのが、「五体不満足（乙武洋匡）」これは400～500万部売れたんですけど、たっけね？その本もあったりとか、「ベターッと開脚」の本が出てきたりとか、結局100万部を超えてる本っていうのは、もう本を読みそうもないような人が、もういろいろ買っている感じなんですよね。

あと皆さん、資格を取られた経験があるかもしれませんが、資格試験を受けるための読書、それからあとはスキル全般を上げよう！ということでスキルアップ、あと私は、今読書会で週に1回発表をしていますから、その読書会で発表するためのネタ作りとして準備をする、そのために読書をするという目的もあります。

それを読んでいないと話題についていけないなっていうこともあるので、とりあえず流行で、世の中の人を読んでいる本ぐらいは読んでおこうかな、そういう気持ちがあってもいいのかなと思います。

そしてあとは、どうしても自分の考えって偏っちゃうんですよ。例えばメールを教えるっていう仕事をしていても、自分の伝えていることが全て正しいはずだって考えちゃう。

あとは、業務上必要な本っていうのもあるんじゃないかな。例えば私の場合だと、「プロが教える！ Premiere Pro デジタル映像編集講座」コロナに世の中なっすぐぐらいに、やっぱり自分で動

これはいろいろ考えた結果そうなっているから、正しいはずだと思いつつも、もし違ったら人に迷惑をかけるなと思って、バランスを取るために、いろんな人のメールの本を読んで、やっぱりこの考えはちょっとずらした方がいいなとか、あとは

お金とか時間とかマーケティングの話もそうですけれども、いろんな人の本を読むことによってバランスが取れてくる。

本って著者が書きたいことを勝手に書いているので、著者の思い込みが強く入っているケースもあるんですよね。なので、読み手としては、この人を信じるっていうよりは、いろんな人のバランスを取って、「ああ自分普通だな・・・」っていう。

普通なところにいると、劇的な変化はないんですけれども、ひどい目に遭うことはないなど。たぶん実践塾の会員さんの方は、割と劇薬みたいなものを求めているっていうよりは、長く安定した事業ができればいい、ちゃんと長く生きれたらいいみたいな人がいて、ギャンブル体質の人はすごい少ないと思うんですよ。

ギャンブル体質の人は、グループの中で毎年1人ぐらい1億円プレイヤーが出てきますよ、みたいなそういうところに行くと、なんかすごい劇的な方法が学べるかもしれない。でもこれ確率の問題なんですよ。世の中で今例えばですけど、株式投資とかで成功した人の話とかを聞いていると、この人すごいなって思うかもしれない。

でも例えばですけども、過去何がありましたっけ？リーマンショックが2007年ぐらいでしたっけ？リーマンショックがありました、あと何かありましたっけ？コロナがありましたよね、コロナショック的なのが。もう1個なんかありますよね？アベノミクス的なやつ？落ち込んだのが例えば3つぐらいあったとして、たくさん投資を研究している人がいたら、もうこれをピタリ当てている人って、いっぱいいるわけですよ。

でもその人が、次4回目何か起こったときに正しい行動を取れるかっていうと、これ正直わからないんですよ。今株価の予想とかを見ていても、これから上がるって予想している人もいれば、下がる、円高円安に関しても150円を超える160円まで行くみたいなことを言う人もいれば、すぐ140円とか130円まで戻るみたいな予想を立てている人もいて、後で答え合わせしたときに、「ほら、言った通りじゃないか」っていう人が半分ぐらい出てきて、その人がまた次予想したときに、正解を取る人が半分なので、今何だかんだ言って予想している人の4分の1が2回当てることになるわけですよ。

いろんな人の情報を取っておいた方がいいっていうのもそうだし、あと著者は、書き手は言いたいことを言う、いうこういう傾向があるので全部信じちゃいけないっていうのが読書の仕方なのかな、ちょっとそんなことを思います。

自分のバランスを取るっていうのも、いろんな本を読んでいると古くからこう言ってる人がいたとか、株外している人がいるとか、いろんな情報が入ってくると自分のバランスが取れるなど。

あと多くの方が自分の悩みを発見するため、悩みがよくわからないなっていう人が悩みに気付く。問題を問題として認識していないケースって多いんですよね。自分はこれで正しいと思っていても、本を読んでも「あれ、ちょっと問題じゃないか・・・」みたいな。「うち、異常じゃないか・・・」とか、それに気づける可能性もあるので、問題を発見するツールとしても使える。当然、課題が出てきたらその課題解決ツールとしても使える。

あと私はライバル会社を知るためにも本を読むし、さらに本の冊数をこなすっていう目的もあります。これは毎年 400 冊読むっていう目標を立てて読んでいるので、そりゃあ、400 冊読まなきゃいけないわけですよ。

なんでかっていうと、知識がもう本当力になる。皆さんも自分が無知だったから、それで騙されたこととか、やっぱりいろんな失敗っていう経験があったりとか、あるいは知らなくて、遠回りをしたとかっていうことがあるんじゃないかなと。

考えてみてください、こんなの 400 冊読んだら大変なことになりますからね（笑）もうね、げんなりします。まだ買ったままの状態ですね、この本は。

ものを知っていると、とにかく判断も早くなるから、時間も有効に使える。私はこのうまみを知っているんで、とりあえず必要そうな知識は、全部詰め込んでおいて、どっかで取り出せたらいいなっていうね、そんなふうに思っています。

例えば、こういう薄っぺらい本もあるわけですよ。「チーズはどこへ消えた?」。400 冊読むって決めたら、この本を月に 1 回読んでいると 12 回、30 分あれば読めますよね。でも数を目標にしたら、薄い本をどんどん選んだ方がいい。

知識とか体験っていうのは、しておいた方がいいなと思うんですよ。この前、稲刈りに行ってきたんですけど、それももう経験のためなんですよ。私はたぶん一生稲刈りしないと思うんですけど、それは何でかっていうと、今回以上の経験がもうできないってわかっているんですよ。

最近ビジネス漫画も、よく読むんですけども、まあ読んだ気しないんですけど、結構いいこと書いてあって、これまた読もうかなと。

稲刈りがどういう手順なのか、どうやったら稲が刈れるか、あれも一束取って刈る、そのままぐっともう 1 個つかんで刈る、4 つぐらいまとめる、自分で縛る。これが機械でガーッとやると、機械が勝手に縛るところまでやってくれる。

年末は、漫画と薄い本、それからフォレスト出版の本が増えてくるっていうね、なんかそんな感じがしますけれども（笑）あの本は本当 30 分あったら読めますからね。

この知識っていうのは、もう 1 回やったらもう周知の事実になってくるから、いらなわけですよ。本っていうのは、そういうふうに自分が持っていない知識をたくさん入れてくれるので、非常に有益だなという、体験に勝るものはないんですけど、本を読んでも、人の話を聞くだけでも、知識っていうのはどんどん増えていくかなと。

でも、何を読んだかよりはやっぱり数を決めて数を達成するっていうことが今、私にとっては大事だったので、私みたいに量をこなすっていう目標を立ててやってる人もいるんじゃないかな。

あとは皆さんどのぐらい本を読むか？月に 1 冊しか読まないみたいなそういうアンケート結果もよく聞かれますけれども、週に 1 冊ぐらい読んだ方がいいかなと思います。

なので私はひたすら本を買い、読み、知識を増やし、たぶん年間 400 と考えたら、どうだろう？

起業してから 5,000 冊ぐらい読んでいないかな、最初の頃ほとんど読んでいなかったですけど、そのぐらい読んだら、そりゃあ読んでいない人と比べたら、多少マシになるはずですよ。そうしないと、悲しいですからね。

読書が嫌いな人に読んでもらうとか、もう少し読者ターゲットを考えていった方がいいのかなってちょっと思いました。こんな感じで目的を考えると、読書をやっていくと絶対はかどるわけです。

何のために本を読むのかって考えたときに、目的を達成したら、その読書はやめていいと思えるんじゃないか。例えば私は 400 冊読むのが目的だ、となった場合は 400 冊読んだ時点で、もうこの目的は叶えているから読む必要がない。

ちなみに、皆さんは「読書」ってどう定義していますか？本を読む定義。本を読むとは？

「少しでも役にたつ情報を仕入れる」

ライバル会社を知るために関しては、ライバル会社が本を出したら、ひたすら読まなきゃいけないんで、これは終わりはない。ただライバル会社が出さなくなったら、もう読まなくていいかな。

でも、そうすると役に立つことが得られない本っていうのはムダなことになっちゃうってことですよ。それをどう見つけるか。

他にはどんな意見があるでしょうか。

「リラックスのために読む」

資格の合格のため。これはもう資格が取れたら読まなくていいし、こういったソフトの操作説明的な本に関しても、ソフトの操作ができればいい。ただ、全く覚えられないんで、毎回これ見て「ああ、このボタンだな」っていうのをやっていますけれども、これは 2,980 円プラス税ですけど、重宝しますよね。

机にかじりついてというよりは、ゴロゴロ…なるほど。

どうでしょう？

確かに「おさらい」っていいですね。

たぶんそれって目的なんですよ、皆さん。

今自分も本を書いていて、本の作り手として、そこを実はあまり意識してなかったんですね。例えば読者が何のために自分の本を手取るんだろう？と言ったときに、課題解決がメインかなと思っていたんですけども、もしかしたら他のところがあるのかなと。

目的も大事なんですけど、読書ってどうしたら終わりなのか。例えば、ほとんどの人が本を読み始めたら、全部のページを読む、全部の文字を読むことを、読者のゴールにしているケースが多い気がするんですよ。

楽しいんでビジネスを学びたいという人に向けては、今まで完全無視をしていたので、楽しんで学びたいとか、要点だけ短い時間で押さえたいとか、

これに、はまっちゃうと途中で読書をやめるってこともできないし、知っていることも読んじやうんですよ。私は知っていることがあったら、パ

ラパラめくるだけにして、読まないようにして  
います。例えば、この「文章術のベストセラー  
100冊」のポイントを1冊にまとめてみた。」

パラパラ見ていくと、とにかくたくさん書くて  
いう項目があったとしたら、それはもうとにかく  
たくさん書くてこういうことだろうなってイ  
メージがつく。そうすると見出しだけサーッと  
追って行って、ああ思った通りのことが書いてあ  
るな。このぐらいになるわけですよ。読まなくて  
いい。

自分があんまり意識していないこと。でもこう見  
ていくと、同じ言葉の重複を避ける、見出しで内  
容を端的に伝える、日頃から内面を豊かに耕す、  
もう中身読む必要はないと思うんですよ。

結局知っていることが書いてあったら読まない。  
私はページをめくったら読書が終了って考えてい  
るので、たぶんこの文章術の本を読もうと思った  
ら、どうだろう・・・1時間はかからないと思うん  
ですよ。

それは自分が説明できる、知っていることが書い  
てあるから。それが復習できてよかったな。でも  
真面目な方々っていうのは、知っていることが書  
いてあっても全部一文字一文字追って行って読ん  
じゃう。

読書の定義を「全部文字を読む」っていうところ  
から、私みたいに「ページをめくればOK」知っ  
ていることが書いてあるところは読み飛ばす、み  
たいに変えていくと、ムダなことをしなくなりま  
すよ。

ただ人によっては、もったいないっていうんです  
よね。読み飛ばしをしたということは、例えば  
200ページ1,000円の本があったとしたら、10  
ページ読み飛ばしをしたら、数十円損をしたみた  
いな、なんかそんななっちゃうんですけれども、  
そんなことはないですよ。

小説とか映画とかだったら、やっぱり全部見た方  
がいいと思うんですよ。いろんなストーリーとか、  
そういう作りがあるので、ただビジネス書とかっ  
ていうのは、知っていることが書いてあったら、  
そこは無視してもいいんじゃないかな。

最初に本を読み終わったらどうするのか。そん  
な話をしていきたいんですけども、皆さん、  
本を読んだらどうしていますかね？もう完全に  
Kindle っていう方もいらっしゃるし、私み  
たいに両方使うっていう人もいますけれども、結  
局本って、いつか使うかもしれないから取ってお  
くでいいと思うんですよ。

使わない本、使う可能性がゼロの本っていうのは、  
ゴミにしかならないので、もう全部捨てましょ  
う。例えば、私なんかは文章の本は100%使う  
可能性がある、だから文章の本はやっぱり捨てな  
いんです。

メールの本はいろいろありますけれども、「恋愛  
系のモテるメール術」っていう本とかも置いてい  
ますね。「ビジネスメールの言い換え」とか、有  
名人が書いた本とか、これは使う可能性が非常  
に高いんですよ。

あとは本の話が来たときに、こういうのを参考  
にして企画を立てるんですよ。

人の企画で、これちょっと盗めるなっていうのがあったら、それは容赦なく使っていったほうがいいので、例文とかって、だいたいみんな同じことが書いてあるので、自分の例文に入っていないのが載っているから、これも入れておこうみたいな、こんな感じで調整する。考えなくていいわけですよ、本がたくさん情報がたくさんあると。

あとは、例えばですけど、「させていただくの使い方」。させていただくっていうのは、やたらめったら聞かれるポイントなので、それを1冊の本にまとめたのかっていう、これはすごくいい本だったんですけど、こういうのはもうずっと取っておく。また聞かれたら答えられるようにっていうことで、取っておく。こういう本はもう捨てちゃいけない。

逆に、こういった「Premiere Pro」の本なんかは、ソフトがバージョンアップして、インターフェースが変わったりしたら、もうこれはお役御免だな。あと自分がもう読まなくてもわかるぐらい理解できていたら、こういう本はどんどん処分した方がいいかなと。

特にインターネット関係の本っていうのは、人にあげても迷惑がられるというか、10年前のDreamweaverの使い方とか、エクセルの使い方とかをもらっても困るでしょうし、Windows5.1とかそんなのありましたっけね。そんな時代の本とかもらっても困るわけですよ。価値がなくて骨とう品にもならないものっていうのは、正直全部捨てた方がいい。

あとは、稲盛和夫さんの「生き方」とか、これきつと一生のうち何回か読むだろうなと思って、たぶ

ん2回ぐらい読んだんですけど、こういう名著って言われるものは、やっぱり取っておいたほうがいい。

この「ザ・ゴール」なんかもそうですよね。「ドラッカーの名言」これも1回も開いてないですけど、ドラッカーの名言あったほうがいいかなと。思うのは私の、これもそうか、これは人がすすめていたから購入した「ザ・メンタルモデルワークブック」これは、ある人がすごいすすめていて、コーチングとかのジャンルになるのかな、自分を深く知るのにはいいですよっていうことで買ったけれども、自分のことはあんまり深く知りたいて思わないので、もう読んでないですよ。

本ってやっぱり時間配分なので、自分の興味があるものとか、優先順位を上げてやらなきゃいけないものっていうところに行く。私が例えば、このあと事業どうしようかな・・・とかって悩み始めたら、自分の心を深く知る必要って出てくると思うんですよ。

あるいは、カウンセリングとかコーチングの仕事をしているならば、こういうものってネタの宝庫だから、すぐ読んだ方がいいと思うんですけど、まあ積読ですよ。

「お金と時間の科学」この本も良かったんですけど、やっぱり時間管理的な本は、たぶんこれは二度と読まないと思うんですよ、でもとりあえず取っておきますね。また違う視点が後でいられるかも。

あとはこういう本ですね「神話の法則」とか、3,600円。これすごい有名ですよ。これなんかすっごいいい本で、なかなか市場に出回らないっ



ということで、やっと中古で手に入れたような、そんな記憶があります。結局私もこういう厚い本ってたくさん持っているんですけども、もうね期待通りに1回も開いてないっていう(笑)

やっぱり尊敬の眼差しで見ましたからね。ということで、そういう役割もありますよっていう本ですね。

なんでしょうね、いつか使うときが来るだろうなと思って買っているわけですよ。神田昌典さんが監訳をしている本、すごい売れている本だったので、私もお多分に漏れず購入しましたが、2012年ですね今から10年前です。もう10年経ったらマーケティングの世界ってどうなんだろうだっという。

本を読むとき、ぜひおすすめしたいのが、読み返すか読み返さないか。得るものがなかった、あるいは、もう十分だからこの本はいらないなと思ったら、私は容赦なく処分した方がいいんじゃないかなと思っています。

私もこういう失敗していますよ、特に分厚い本って、読む気にならないんですよ。何かいい本買ったぞってモチベーションが上がっていますが、「マーケティング大全」「戦略的ブランドマネジメント」「研修開発入門」うん・・・全部1回も読んでいません。

置いておいても、使えるときは来ないので、基本売る、人にあげる、捨てる。捨てるのは誰にとっても価値がない本、これは捨てちゃった方がいいかなと。売るのは、メルカリだったりバリューブックスだったり、これはいいかわからないんですけども、小説なんかは出てすぐ売っている人がいるので、そこで買うと安く買え、また、そこで売ると同じ金額で売れるということで、ほとんどお金をかけないで本が読める、そんな時代になってきているので、そうすると作家さんがかわいそうだなってちょっと思い始め、メルカリはあんまり使わないようにしようかなって、ちょっと思ったりしました。

これは何なのかっていうと、たぶんこのマーケティングの本は、次パラッと見て今年の年末の大掃除で、サヨナラをするのではなかろうか、あるいはこの本を置いておくことで撮影したときに、後ろに本棚が映って、賢そうに見せることができると。その背景として取っておいてもいいかなって思うんですよ。

そもそも紙の本と電子版、どっちがいいんだろうという話も少ししておきたいと思うんですけども、私はこうやって紙の本もたくさん持っています、それからKindleも端末、それからiPhoneにも入れているし、デスクトップにもKindleを入れています。

これが例えば「漫画でわかるコトラー、なんやら・・・」みたいなそういうのがいっぱい並んでいるよりは、やっぱりそれっぽく見せるための道具として置いといてもいいかな。

ただ読むだけだったらKindleが一番いいと思うんですよ。いろんな人が、「イヤ、紙のほうが学習効果があるんだ」とか、いろいろ言うんですけども、ただ情報を得るだけだったら、もう

確かに起業した頃、起業家の先輩のところにお邪魔したら、もう分厚い本がいっぱい並んでいて、

Kindle で十分じゃないかな。	ていうのもよくあるんですよね。その辺はちょっと残念かな。
これって新聞とインターネットの日経さんのサイトとか見ても同じだと思うんですけど、正直なところ情報としての大差はないかなと。	紙の本っていうのは、図版がわかりやすいし、人と一緒に見ることもできるし、一覧性もあるし、所有欲が満たされるし、壁に並べたときに気持ちがいい。やっぱり Kindle の中の本棚だと、ちょっと一覧性も低いし、検索性もちょっと低いし時間かかるし、それによってどっちにするのかという話し。
ちょっと細かく考えていくと、Kindle で買った本って売買ができない、だから資産価値で考えたら紙で持った方がいいっていうケースもあるし、私みたいに小説をすぐ読んで手放すような人は、私はたぶん小説は紙でしか今後も買わないだろうなと思います。	紙の本のデメリットは、場所を取る、これだけあると場所も取るし重たいし、それで床が抜けるなんていう人もいる。引越するときには面倒だし、最近ちょっと目が悪くなる、これは老眼ですかね(笑) になると、ちょっとキツイわけですよ、疲れるし。
Kindle で読む本っていうのは、Kindle Unlimited に入っているような小説ばかりかなと、そんなふうに思っています。	電子のメリットは、場所・空間を取らない、あとはやっぱり基本安く売っていますよね、ポイントが付くとか、あとは Kindle Unlimited に対応していますよね。
今日はちゃんと話をしようと思ったので、紙の本のメリット、Kindle のメリット・デメリットをちょっと考えてみたんですけど、物事を考えるときに、メリット・デメリットを全部書き出していくと、すごく考えがしやすくなる。	私普段、Kindle で読むときっていうのは、何かいいこと書いてあったらそこに線を引いて、それを自分のメールに送っています。昔は Kindle で読みながらスマホ立ち上げてスマホにメモを取るってやっていたんですけど、もう面倒なので、ピンときたワンフレーズだったら、それだけメール。また良いことが書いてあったら、それだけメール。後でメールをまとめて受け取って、それを Todo に移す。
例えば、紙の本って、売れる・資産価値がある。それから線が引けるとか、耳が折れるとか、付箋が貼られるとか、あとは出版点数が多い、ここにある本でもたぶん Kindle 版になっていないものも多いと思うんですよね。そういうものはもう紙で買うしかない。	あるいは note に記事を転載してページを 1 個作る、そんな読み方をするようになりました。この
あとは、本の装丁とか厚さだったり、手触りだったり、そういうところから伝わるものってあると思うんですけど、Kindle はもう何も伝わってこず、読んでいたらいつまでたっても終わらないなあとと思ったら、めちゃくちゃ分厚い本だった	

iPhone の中の Kindle アプリでも文章のコピーはできるんですけど、できる量に上限があるんですよ。そうすると、線を引いたのに「上限超えています」って出てちょっと面倒くさいなって思うことがあるので、最初の頃はいろいろ考えて画像でキャプチャー撮って OCR で読んだらどうか？とか、いろいろやったんですけど、そんな面倒くさいことする必要ないな、というそういう感じですよ。

この前、実践塾の飲み会でそんな話しになったんですけど、Kindle Unlimited に入っている人が、当時 8 割いたんですよ、手を挙げてくれた人が。そのぐらいも普及していて、会員さんのように本を月に 2 冊 3 冊読む人っていうのは、もうこれを入れておいた方がいいなっていう、長いものには巻かれた方がいいなと。月額 980 円ですから 2 冊読んだら元が取れる。

「今なら 3 ヶ月 199 円で読み放題」みたいな、そういうのが毎月毎月あるので、1 回試してみるのがいいんじゃないかなと。

やっぱり本って買ったなら読まないともったいないっていう感覚があると思うんですけど、Kindle の本は、私ちょっと読んで、つまらなかつたらすぐ消します。これを繰り返し繰り返し、いい本に出会ったらその著者の本をひたすら読む、そんなことをやっています。雑誌はいろいろ入っていますけど、雑誌は向かないかなとそんな印象があります。

Kindle の端末、これはオアシスだったかな、ペーパーホワイトっていうのもあるじゃないですか。私の Kindle 購入歴をさっき確認をしたところ、

2014 年 2 月にペーパーホワイトっていうのを買ったんですよ。何が違うかあまりよくわからないんですけど、すごく軽くて使いやすい気がしたけど、ページを送るときにすごい重たいんですよ動作が。普段ちゃっちゃか読んでいくタイプなので、もうページが変わるのが遅すぎて「イヤだなあ」と思って、読むのをそこでやめました。

当時は私 Kindle なんて流行らない、電子書籍なんて普及しない、ということ言うぐらい、端末が追いついていないのと、世の中にまだ浸透していないっていう状態だったんですけど、気づくとコロナに入った 2021 年の 4 月に、商品を読み上げると「Kindle Oasis、色調調節ライト搭載 Wi-Fi8 ギガ」っていうのを買ったんですよ、26,480 円。

そこですぐ行き詰まったのが、ちょっと漫画を入れてみたりとか、入れる冊数が多くなると、これ以上入らないと言われて、1 年後に 32 ギガのものを買い直しています。

これは、使い方としてダメなやつだと思うんですけど、ダメなやつなのかな。まあ、いいかな。結局、平野 Kindle1 号、2 号と 2 つあると、両方に本が入るんですよ。「平野さん、なんとかの本読みたいんですけど」って言われたら、今まで紙の本で貸していたんですけど、「あっじゃあ、Kindle に入れておきます」っていうこともできるようになったので、同じ本が複製されるからそれはいいかなと。これはダメなやつですかね。会社に置いておく。う～ん、ダメなやつだけど大丈夫かな … 大丈夫ではないかな … これからはやりません (笑)

Kindle の端末買うときに、広告あり・無しって  
いう表記があって、私は広告無しにしているん  
ですけど、有りだと、スリープ状態にしてい  
る時の表紙に広告が出るとか、そういうもの  
なん、そんなに邪魔にはならないと思うん  
ですけど、2,000 円で変な広告が表示され  
なくなるんだら、まあいいかなと思いました。

置いているんだとか、そういうのを知識とし  
て持っていないと、本当偏るわけですよ。普  
段今まで Amazon でしか買っていなかったの  
で、Amazon で買っている、出てきている本  
だけが売れているっていう、そういう世界し  
か見えていなかったんですけど、やっぱり自  
分の世界じゃなくて、いろんな人が作っ  
ている世界にお邪魔した方がいいなとい  
うことで、本屋さんに 2 週間に 1 回ぐ  
らい行ったらいいかな。

端末のホームの画面の下にもスポンサーの  
バナーが出るって書いてあったんで、それ  
がどの場所にもどのくらい出るとかわから  
なかったんで、まあ 2,000 円か …、いい  
や … というそんな感じでした。

もうひとつ、本屋さんに行く理由が、Am  
azon が儲けてもしょうがないかなと思  
うようになりまして、もうひとつ、ヤマト  
さんとかが運んでくると、この 1,000 円  
とかの本が送料なしで運ばれてくるとい  
うことは、すごい大変な思いをして最後  
のラスト 1 マイルを運んでいるんだら  
うなって考えると、何か書店で買った方  
が、みんな幸せなんじゃないか、みたい  
にちょっと思うようになりました。

ちなみに毎年、11 月の今年は 25 日金曜  
日に、ブラックフライデーっていう、みな  
が安くいろんな物売るというタイミングが  
来るので、ひと月くらい待っていたら、  
Kindle の端末がまた安売りされると思  
うので、そういうときに見るのもいいか  
ななんて思います。

最近流行りの SDGs とか、二酸化炭素を  
減らしましょうって話しもそうかもしれ  
ないんですけど、本の配送をするって  
いうのは行為としてどうなんだろうな  
って、ちょっと考えるようになった。

ここから普段、本をどうやって選んで  
いるのかっていうことなんですけれど、  
今自分に課しているルールというか、課  
し始めたルールは、月に 2 回本屋さん  
に行くというのを決めて、この前から  
やり始めました。会社の側の三省堂と御  
茶ノ水駅の丸善と、自宅のそばのブック  
ファースト新宿店があってブックファ  
ースト新宿店とかってやったら専門書  
がたくさんあるので、そこをよく行って  
普段見ない、この前スピリチュアルコー  
ナーとか宗教のコーナーとか見たん  
ですけど、この人の本がこんなに並ん  
でいるんだみたい。

近くの本屋さんが潰れたら困るわけ  
ですよ。その三省堂なくなったら結構  
困るので、やっぱり本は三省堂か丸  
善のリアル書店。あとは田舎に行っ  
たときは、ちっちゃな本屋さんに行  
って買った方がいいなとちょっと思  
ったりしています。

この人、Amazon のランキングで 1 位  
だったのを何回か見ているけど、やっ  
ぱりリアル書店にも

本を選ぶときどうするかっていうと、  
好きなものを選んで全然いいん  
ですけど私は目についたら基本「買  
う」ってしています。Amazon で買  
っていたときは、もう吟味はしない、  
もう中身も一

切見ない、これは賛否両論あると思うんですけど、会社の経費だから私は全て何でも買う、ここに使っていない本がたくさんあるのは、あんまり話しじゃないんですけど、結局会社が例えば3,000円出して本を買いました、で、それ以上の利益を会社にもたせればいいという考え方なので、基本、悩む時間があるんだったら、もうどんどん買ってどんどん読んで会社に貢献しようっていう、そういうパターンでやっております。

基本多読なので、Amazonのランキングで上位に入っているとか、人のメルマガで紹介されていたとか、こういう場で「この本、いいよ」って言われたら、基本全部買っています。

他にも新聞の書評とか、読書会に今は毎週出ているので、その読書会に参加してる人が、「これいいよ」ってすごいすすめたものはこれも全部買っています。そうしないと読むものが出てこないんですよ。だいたい読書会の最後は撮影するんですけども、そこで出ている本って3分の1ぐらいは、読んだことある本なんです。そのぐらい、まだまだ逆に読んでいない本があるので、読んでいない本もどんどん読んで読むと、そんなふうにしております。

売れている本が決して良い本ってわけじゃないんですけど、売れているって何か理由があると思っていて、仕掛けなのかタイミングなのか、人が買う理由っていうのがあると思うので、やっぱり売れ筋、ビジネス書だったら10万部、世の中に出る一般書だったら100万部を超えているものは全部押さえておこうかなと思っています。

あと本を選ぶときに、基本興味ある著者の本って

いうのは、飽きるまでずっと買います。この頃なんかは、神田昌典さんの名前がついているものは全部買うっていうね、そういう感じでしたけど、その後は買っていませんよね。

私、人の名前を覚えるのが非常に苦手なので、今著者の名前が出てこないんですけど、お坊さんが書いている本、柊野さん！柊野俊明さんでした。この人の本が実は、Kindle Unlimitedにたくさん出ていて、1冊読んだらすごいよかったですよ。他にないかなと思ったら、最近その著者買いつくるときは、Kindleの読み放題に入っていないかなで調べて、出てきたものは全部読んでいます。

それでも飽きなかったら紙の最近の本を買う。この柊野さんの本は10冊以上読んで、「うん、なるほどこういうパターンか」っていうのがわかってきたので一旦打ち止めにしようかな。

私は飽きるまで読むのをおすすめしていて、するとその人のエピソードってだいたいかぶってくるわけですよ。私も過去に本いろいろエピソードを書いていますけど同じことを書く。それはもうネタが無いからでしょうがないし、それを超えるエピソードが無いからそれを使う。

そうするとその人の話っていうのがある程度形が見えてくるので、そうしたらこの著者じゃなくていいかなっていう感じですかね。著者で選ぶじゃなく人のすすめじゃなく、あとは何かっていうと、出版社で選ぶというのもよくやっています。

やっぱり、ダイヤモンド社さんのこの壁を通り抜けてきた人とか、ちょっとざっと挙げると、プレジデント、東洋経済、日本実業出版、かんき出

版、講談社、最近だと同文館、朝日新聞出版、サンクチュアリ、ディスカバー、日経 BP、徳間書店、ビジネス社、日経新聞出版社、サンマーク、PHP、技術評論社、フォレスト出版、文響社などなど、ちゃんとした出版社っていうのがわかっていたら、ちょっとあんまりいい話じゃないかもしれないんですけど、やっぱり自主出版っていうのは、商業出版できない人が自費出版をするっていう流れが圧倒的に多いんですよ。

ていないのかなと。もしかしたら、出している人も営業として配ればいいや、とか、思い出作りとか、そういう本になっている可能性があつて、そうすると商材を売るための本になっていたりとか、得られるものがない本になっている可能性があるんで、こんなストレートに言っていかがかわかりませんが、出版社を見て買うっていうのもひとつの方法なんですよ。

となると、私はその自主出版で出したであろう本っていうのは基本読まないようにしていて、ダイヤモンドでも自主出版の部門があるわけですよ。これたぶんそうだなと思ったら避けます。読んでいるとわかるんですよ。これはちょっと著者の主張が強すぎて、これは明らかにお金払って作っているなみたいな。

昔の私のように Amazon でそのまま買うっていうと、手に取って初めて「あれ？これ違うじゃん」ってなる可能性があるんで、ネットで直で買う人はこういう選び方もありかなと。

幻冬舎の本が読むけれども、幻冬舎ルネッサンスの本は読まないみたいな。具体的な社名言っていないのかわかりませんが、実はちょっと気になって幻冬舎メディアコンサルティングっていう会社がよく営業電話してくるんですよ、「本出しませんか？」って。「イヤ、本出していますよ」「ああ、そうですか」みたいな、こんな会話をするんですけども、ホームページをさっき見て思ったのが、ジャンルが広いんですよ。

普段私が紙の本を買うときは、確実にこうやっていますよという話しをすると、まず表紙見て、タイトル・著者を見て、帯を見て、このジャンルのこのタイトル面白そうだな、これは「短い正義」で、私も短い正義だと思っていて、60文字ワンメッセージ、で私は50文字ワンメッセージって言っているので、これはどういう違いかなとかって気になるわけですよ。

絵本があつたりとか小説があつたりとかビジネス書があつたり、いろんな宗教的な本があつたり、200冊見たんですけど知っている著者、知っている本が1冊もなかったんですよ。

で、手に取る、そうしたら値段を見て「へえ1400円かあ」。次、私は絶対誰が書いたかを見ています。この人が書く資格があるのか語る資格があるのかってやっぱり大きいので、コピーライターの人が書いているんだ、なるほど。京都芸術大学出身なんだとか、ここにポカリスエットやったんだ、カロリーメイトやったんだ、なかなかこの人はすごそうぞ。

これがいい悪いっての難しいかもしれないんですけども、そんなにメジャーになっている本が出

この後で、皆さんどっちに行きますかね？私は目次とかじゃなくて、あとがきを見ます。見るというよりは、あとがきをがつつり全部読みます。

あとがきって私も本の一番最後書きますけれども、いちばん読んだ人に伝えたいメッセージを書いているので、ここの書き方によって、この人はこういう気持ちでこの本を出したんだとか、この人が言いたかったのはこれなんだなみたいなことが書いてあって、結構人となりがわかったりとかするので、いいんですね。

この本なんか読みやすそう、良さそうだなと思って、その後にプロフィールを見るっていう感じですよ。あんまり本を読み慣れていない方は、もう正直なところ目次だけ熟読したらいいです。もう正直この目次だけあれば、本が1冊書けるぐらい、そのぐらい、ちゃんと言いたいことを出して並べて伝わるようにして、いろいろひねったりもしているんで、この目次を5分ぐらい時間かけて読んだら、そもそもこの本買わなくていいじゃんってなるかもしれないし、あるいは自分で書かれていることが推測できないんだったら買えばいい。

個人的には謝辞がいっぱい書かれている本は、ちょっと違うっていうとアレなんだけど、私もよく謝辞に名前を出してもらってから、あれなんですけど、謝辞が100人ぐらい載っているものとかを見ると、「これはこの人たちアンケートに答えたのかな」とか「何かそういうグループがあるのかな」とかいろんなこと考えちゃうので、何か純粹に作られた本だっていうのを見るならば、ただのあとがきがいいのかなと。

「ポイントを絞るなら3つ」「強みを数字に置き換える」何かわかりそうだけど、具体例が自分で出せないなと思ったら、これは買いの本かなとかそんな感じですね。

あとは、家族に対する謝辞を書いている人も結構いらっしやるんですけども、それも、家族が大事なのかなとか、そういう印象を作りたいのかなとか、そんなことをちょっと考えちゃったりもします。

この辺にある分厚い本たちっていうのは、全部Amazonで直で購入したものなんで、届くまでこんなに分厚いと思っていないんですよ。買ったときは3,800円か、専門書だからちょっと高いんだろうなと思っていたら、想定の倍の厚さのものが届いているっていう。唯一思った通りだったけど読んでいないのが、さっきの研修の本ぐらいかな。

あとがき見て、この本も良さげだな、買おうかな？と思ったらそこで初めて、前書きを見て、あとは目次を割としっかり見ます。目次見て、そしてレジに行くっていう感じですね。

結局本っていうのは、値段と価値があって、価値が高ければ値段が別に1万円でも1,000円でも、それを超える価値を自分が受け取れるんだったら、この本というのは買になるのかなと思うんですよね。

私あの大事なことをひとつ今、間違えました。表紙を見た後には、パラパラ見るのが最初です。表紙見てパラパラ見て、もう字がすごい詰まっているとか、図版がないとかだと、読みづらいなと思ってそこで置きちゃうことが結構あります。

全ての購買行動がそうだと思うんですけども、自分の価値を高くしておいたら多少高い本でも買えると、このイメージはわかりますかね。自分の

時給が1万円だったら1万円の時間短縮できるなら、この本は買おうみたいな。

この1時間があったらどんな楽しいことできたんだろうか。

自分の時給が1,000円だったら、この本から得られるものは少ないかもしれないみたいに考えていく。そうすると、いかにこの1冊の本から価値を引き出すかっていうのは、こっちの作業になってくるので、私だったらこの本を1冊読んで、TODOが5個出た。よし、大正解。もうこのぐらいの感覚で、いつも本と向き合っています。

読者も一緒に、映画館だと出るのはちょっとな、気が引けるなってなるかもしれないんですけど、本は自分の意思でやめることができるので、つまらないなと思った本は、もうやめる、すぐ売る。オンラインセミナーだったら、電源を切るっていうね。「なんか調子悪いんでちょっと一旦落ちます…」みたいな感じで、やめた方がいいと思います。

著者さんっていうのは、すごい時間をかけて本を書いているので、どんだけ時間かけたんだろうってすごい考えるんですね。何人の人が関わってどのぐらいコストをかけて、この人は本を生み出したんだろうと考えると、やっぱりそこに敬意を持って本を読んであげた方がいいんじゃないかなと、そんなふうに思っています。

普段本を読むときにどんなことを考えながら読むのか。この著者の人が目の前にいたら、何か質問できることないかなと思って読むのがいいです。例えばセミナーだったら、ただフンフンって聞くよりは、自分が質問したいことを見つけるという読み方をしておくといいですよ。

実際、本を選んでこれから読むっていう話になっていきますけれども、つまらないな、得られるものがないな、予想外だなと思ったら、読むのをやめた方がいいです。これね、もったいないって思うかもしれないんですけど、まずいものを最後まで食べたらずいですよ。これしょうがないんですよ。

これは、読み方の話になるんですけど、私は言葉を読むときに、塊で捉える読み方をしているんですね。基本的に助詞を読まないっていう感じなんですよ。この言葉だったら「目的志向」「読書術」みたいな感じで漢字だけ、これで十分意味って理解できる。

映画とかでも、映画館入って10分ぐらい見てこれ駄作じゃないか自分に合わないと思ったら、出た方がいいですよ。出てカフェに行くとか、別の映画を見直すとかの方がいい。でもほとんどの人が1,500円もったいない、いや今1,700円ぐらいでしたっけ？1,800円？がもったいないからって最後まで見ちゃうんですけども、そこにかけた時間の方が価値が高いわけですよ。

「てにをは」を、私はほとんど気にしないで読んでるので、自分の「てにをは」が多少おかしくてもそんなに気にならない。だいたい日本語っていうのは漢字をとらえて語尾、「である」「ではない」の語尾をちゃんと捉えておくと、イエスかノーかわかるので、もう本当読み方としてはブロックで3行ぐらい同時に読んでいく。

そこに書いてある漢字を見ていくと、だいたい何



を言いたいかわかるので、そういう読み方をしていくのがおすすめのかな。これはメールを早く読むのもそうなんですよね。見出しだけ追って、興味があるとだけ読むとか、あとメールも冒頭の挨拶なんかは、ただ書いてあればいいので、どんな挨拶かは基本気にしない、だからそういう読み方をおすすめしています。

ほとんどの人が全ての文字を同じ重みで読んでるんじゃないかな。そうすると、理解がしづらくなっちゃうので、軽く読むところ、重く読むところ、読み飛ばすところっていうのを決めていくと、スラスラ読めますよ。

読んでいてわからないこと。この登場人物誰だけ？みたいなことがあっても前に戻らない。前に戻るとすごい時間かかるんですよ。自分はバカだ、みたいなことを考え出しちゃうので、わからなくても先に進む。とりあえず全部めくって、もう1回読み直す、その方がいいです。

そうなんですよね私、本は基本、前に戻らない。基本というか全く戻らないんですよ。ただ人と話しをしているとすぐ戻る人がいるんですよ。でも、戻ることっていうのは実はあんまりよくないですよ。

1回通しでこのセミナーを聞いて、よくわからなかったなと思ったら、もう1回見直すと理解が絶対できるはずなんです。最初気づかなかったこと、それが今度入ってきたり、全景が見えてくるから、細かいところに目がいったりということになります。なので、良い本は何度も読んだ方がいいですね。

「さおだけ屋は〜」の本も、2回目読んでみたら全然違うことが得られた。だいたい人って1回読んでそのときの興味しか見ていないので読み直すことをおすすめします。

本に書いてあることは、基本疑った方がよくて、著者も知識がなくて誤ったことを書いているケースあるんですよ。さっきも新聞の記事の確認をされていて、これも言葉を間違えるといけないんですよ。新聞というのは基本確認って上がってこないで、ちょっとコメントの確認をしていたんですけど、「このコメントっていうのはちょっとまずいよね」っていうのを直してもらったりとか、意見を伝えたりとか、プロのライターさんとか記者さんが書いてきたものも、日本語として間違っていたり情報として間違っていることっていうのは絶対あるんですよ。

本も、今私が書いている本は、編集者、私、うちの別のスタッフ、それから校閲の人、4人ぐらいしか関わってなくて、その人たちの知識で網羅できていないものっていうのは抜けちゃうんですよ。なので本は95%信用する。5%はこの人間間違っているんじゃないかな？と思って、対話をするつもりで見ていってください。

書き手のポジションによって書かれ方って違うので、結構本を読んで批判する人っているんですよ。これは私が批判されるからなんですけど、「初心者向けのことしか書いていなかった」って書くんですよ。でも、この本は初心者向けに書いてるんだから当たり前じゃないか、と思うんですよ。

なので本を買ったときに、例えば短い正義だったら、普段長くなっちゃう人がターゲットなんだ

ろうなど。文章が苦手な人とか、あまり文章のことを勉強していない人とか、楽々書ける、スラスラ書ける、伝わるなので、楽々書けていない人が対象なんだろうなと思っているわけですよ。

そうすると、書いてあることが知っていることばかりだとしても、「知っていることばかり書いてあった、これはダメな本だ」という評価にならないわけですよ。

それってもう、読み手のスキルの問題になってしまうので、なのでこの人がどういう意図で誰に向けて書いているのかっていうのはちゃんと捉えた方がいいです。

そうしないと、ソフトの使い方や上級編をいきなり買ってよくわからないとか、この方がわからんとかっていう、そういう評価になっちゃうので、そこは合わせていきましょう。

本をもっともっと理解したいなと思うのであれば、普段私は本を読むときは、TODO を出すってことだけ考えて、「あっ、いいこと書いてあった！これをやろう！」もうこの繰り返しのために読んでいます。

これは、セミナーの受け方と一緒にかなと思うんですよね。あとは知識として記憶に残ればいいや。もっともっと知りたいのであれば、マインドマップを書いていくとか、それから note とか、メルマガとかに記事として公開していくとか、私が今参加しているような読書会で発表するとか、アウトプットを前提にすると、インプットがちゃんと入ってくるんですよ。

読書会に私も、もう2年ぐらい出ているんですけど、それまでは何を讀んだか全然覚えていなかったのが、週に1回ちゃんと何を讀んだかって残っているので、本の名前を覚えられるようになりましてね。あとこの本を讀んだっていうのが明確にわかるようになった。

今までは誰が書いたか、どんな本かってどうでもよくて、TODO を出して処分。だから同じ本をまた買っちゃうっていうのがあったんですけど、そういうのがずいぶん減りました。

読書会は、今私が参加しているのはPAGという社団法人の読書会で、そこは4人ぐらいのグループを作って、Zoomのブレイクアウトルームに分かれるんですけど、1人1冊使って3つぐらい引用して、自分のコメントをつけて、引用、コメント。最後に、「この本で得たもので、私はこんなことをやりますよ」と宣言して、みんなからフィードバックをもらう。というのを人数分やるんですよ。

そうすると、引用するところって、声を出して読むから覚えられるし、みんなからフィードバックがもらえて、違う気づきが得られたりとか、宣言するから何かやんなきゃいけない、アウトプットするからやんなきゃいけないってみたいになっていくので、読書習慣作りたい人は、こういうのを使ってみるとか、あるいはメルマガを出すとか、何でもいいんですけど、アウトプットの場で読むと絶対読書ってのはかかります。

本を読む時間をどう作るかですけども、読む時間ってというか読む習慣がない人は読む時間を作らなきゃいけない。本を読む時間作ろうと思ったら、

<p>強引にこじ開けるっていう方法もあれば、今ある時間の中でやりくりするっていう方法もあって、ひとつは移動中、それからお風呂の時間、私はこれを読書にあてています。</p>	<p>読んでいきますと。1冊読むのに、だいたい平均すると90分ぐらいです。</p>
<p>お風呂に今20分ぐらい浸かっていて、通勤30分ぐらい何だかんだ言ってあるのかな。そうすると1日80分ぐらい読書に充てられる時間が、何もしなくても作れるんですよ、</p>	<p>これなんでかっていうと、知っていることが書いてあれば、読むのが早い。薄い本を読めば読むのが早い。いろんな理由があって平均すると90分ぐらいで1冊読める。</p>
<p>皆さん、通勤ない方いらっしゃるかもしれませんが、お風呂の時間とか通勤時間とか、ウォーキングしている時間だったら音で聞くっていうのもありかもしれないですけど、今の中でこうやって増やせるものがないかって考えていくのが、まずはおすすめです。</p>	<p>だからやる気ないんですよ分厚い本っていうのは。これたぶん5時間とかじゃ終わらないだろうなと思っていて。だいたい200ページぐらいの本なら90分あれば十分です。これを計算していくとどうかっていうと、600時間の本を読むのに365で終わったらどうか。</p>
<p>どこで読んでいるか？なんですが、基本自宅で読んでいます。自宅のソファでゴロゴロしながら読んで、ゴロゴロしてちょっと体が疲れてきたら、今度は窓を開けて、窓に腰掛けて落ちないようにしながら本を読んでいます。</p>	<p>そうすると、400冊を読むためには1日100分あればいい。こういうことになるんですけども、もともと私が日常生活で捻出した時間っていうのが、通勤時間とそれからお風呂の時間、それで80分もう毎日取れているんですよ。</p>
<p>そこから落ちたら確実に死ぬので、気をつけていますけれども。あとは家の中で歩き回って読むこともあります、運動がてらですね。本当は外に出て歩きながら読みたいんですけど、ちょっとよくないなと思っているので家の中で読みながら歩くという、こんな感じでやっています。</p>	<p>お風呂も毎日入るし、通勤しないこともありますけどね、ただ土日で3時間取れているので、80分よりもたぶん長い時間取れているのかなと。そうするとあとは意図的にちょっと読書の時間を増やすだけで、このぐらいは捻出できます。</p>
<p>あとは確実に土日の午前中に3時間読書の時間を取るというのをやっていて、読書会終わった後とかに、そのまま読書の時間を3時間ぐらい取ることが多いかなと思います。「平野さん、結構本読みますよね」と言われて、だいたい400冊</p>	<p>この同じ考え方でいうと、1冊180分、倍かかる人がいたとしても、同じ考え方でちゃんと時間を確保できれば200冊は読めるんですよ。200冊っていうと多くなって感じるかもしれないんですけども、1週間1冊だったら、だいたい50冊ということで、そのぐらいの時間はなんとかなるんじゃないかな。</p>

1冊3時間かかる人でも、そのぐらいの時間は捻出できるのではなからうかという感じですかね。読むと決めないと読めないの、時間を作ってくださいというそういう感じです。

私がこれだけ読める理由をちょっと考えてみたんですけれども、400冊読むって会員さんに宣言をしている、しかも「年間400冊読む平野が厳選した本をお届けします」ってどこかに書いてるので、読まないはずなんですよね。こうやって約束をしていると、やらざるを得ない。あとは冊数にフォーカスしているわけですから、薄い本も全然あり。この本もOK。

あとは知識を増やしていくと、絶対読書ってスピードが上がりますから、知識を増やすべき、制作の人が制作の本を読んだら、そりゃあ知っていることが書いてある。掃除をする人が掃除の本を読んだら、そりゃあ知っているって話し。

でも知らない私が読んだら、このカタカナなんだろう？とか、この機材なんだろう？とか、この手順おかしくないか？っていういろんなこと考えちゃうんですよね。知っているモノが増えるっていうのは絶対、読書が効率化に繋がっていきます。

あとは本を読んでも理解にこだわらないっていうことが、とっても大切で、理解できていなくても、いつか理解できる時が来るので、今そのタイミングじゃないんだって思った方がいいです。

最近インボイスの本とか読んだんですけど、よくわかんないんですよね、ただあと半年ぐらいしたら否が応でもわかる時期が来ると、そんなふうに思っています。

あとは工夫を続けていくことで、読書の習慣っていうのは作れていくのではなからうかと思っています。冒頭に400冊読むというこんなお話から入っていますけれども、もう数を追う読書って意味がないなと思い始めていて、たくさん読むことの価値っていうのが薄れてきているんですよ。

これからは、意味のある読書にちょっと転換していこうかなと思っています。300冊ぐらいまで減らして、中身を濃くしていくとか、この分厚い本たちを読んで処分するとか、ちょっと読書のやり方を変えていこうかなと思っています。

ということで、ぜひ皆さんも、読書習慣を身につけて、知識を増やしていただければなと思っています。

ということで以上でございます。どうもありがとうございました。

発行

株式会社アイ・コミュニケーション

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-1 KIMURA BUILDING 5 階  
TEL : 03-5577-3237 FAX : 03-5577-3238 e-mail : jyuku@sc-p.jp

Copyright (C) 2022 I-communication Inc. All Rights Reserved.

非売品